2

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

谷川の岸の小さな学校に、風変わりな転校生・高田三郎（又三郎）がやって来た。ある日、三郎と嘉助（かすけ）と一郎たちは、一郎の家の馬で競争することになった。その時、二頭の馬が突然逃げ出したため、嘉助と三郎が追いかけた。嘉助は、三郎ともはぐれてしまい、一郎たちの元に帰ることもできず、足がしびれ意識がもうろうとなり、深い草の中に倒れてしまう。

嘉助はやっと起き上がって、せかせか息しながら馬の行ったほうに歩き出しました。草の中には、今、馬と三郎が通った跡らしく、かすかな道のようなものがありました。①嘉助は笑いました。そして、（ふん、なあに、馬もどこかでこわくなってのっこり立ってるさ）と思いました。

そこで嘉助は、一生懸命それをつけて行きました。

A

その道のようなものは、まだ百歩も行かないうちに、※おとこえしや、すてきに背の高い※あざみの中で、二つにも三つにも分かれてしまって、どれがどれやらいっこうわからなくなってしまいました。

嘉助は「おういい。」と叫びました。

「おう。」とどこかで三郎が叫んでいるようです。思い切って、そのまん中のを進みました。

けれどもそれも、時々切れたり、馬の歩かないような急な所を横ざまに過ぎたりするのでした。

空はたいへん暗く重くなり、まわりがぼうっとかすんで来ました。冷たい風が、草を渡りはじめ、もう雲や霧が切れ切れになって目の前をぐんぐん通り過ぎて行きました。

（ああ、こいつは悪くなって来た。みんな悪いことはこれから集（たが）ってやって来るのだ。）と嘉助は思いました。全くそのとおり、にわかに馬の通った跡は草の中でなくなってしまいました。

（ああ、悪くなった、悪くなった。）嘉助は胸をどきどきさせました。

草がからだを曲げて、パチパチ言ったり、さらさら鳴ったりしました。

霧がことに滋（ひときわ濃くなって）くなって、着物はすっかりしめってしまいました。

嘉助は咽喉（のど）いっぱい叫びました。

「一郎、一郎、こっちさ来う。」ところがなんの返事も聞こえません。

黒板から降る※白墨（はくぼく）の粉のような、暗い冷たい霧の粒が、そこら一面踊りまわり、あたりがにわかにシインとして、陰気に陰気になりました。草からは、もうしずくの音がポタリポタリと聞こえて来ます。

嘉助は、もう早く一郎たちの所へ戻ろうとして急いで引っ返しました。けれどもどうも、それは前に来た所とは違っていたようでした。第一、あざみがあんまりたくさんありましたし、それに草の底にさっきなかった岩かけが、度々（たびたび）ころがっていました。そしてとうとう聞いたこともない大きな谷が、いきなり目の前に②現れました。すすきがざわざわざわっと鳴り、向こうのほうは底知れずの谷のように、霧の中に消えているではありませんか。

風が来ると、すすきの穂は細いたくさんの手をいっぱいのばして、忙（せわ）しく振って、

「あ、西さん、あ、東さん、あ、西さん、あ、南さん、あ、西さん。」

なんて言っているようでした。

嘉助はあんまり見つともなかったので（見たくなかったので）、目をつむって横を向きました。

そして急いで引っ返しました。小さな黒い道がいきなり草の中に出て来ました。それはたくさんの馬のひづめの跡でできあがっていたのです。

嘉助は夢中で③短い笑い声をあげて、その道をぐんぐん歩きました。

けれども、たよりのないことは、みちのはばが五寸※ぐらいになったり、また三尺ぐらいに変わったり、おまけになんだかぐるっと廻っているように思われました。そして、B、大きなてっぺんの焼けた栗の木の前まで来た時、ぼんやり幾つにも別れてしまいました。

そこはたぶんは、※野馬の集まり場所であったでしょう。霧の中に円い広場のように見えたのです。

嘉助はがっかりして、黒い道をまた戻りはじめました。知らない草穂が静かにゆらぎ、少し強い風が来る時は、どこかで何かが合図をしてでもいるように、一面の草が、それ来たっとみながらだを伏せて避けました。

空が光ってキインキインと鳴っています。それからC目の前の霧の中に、家の形の大きな黒いものがあらわれました。嘉助はしばらく自分の目を疑って立ちどまっていましたが、Dどうしても家らしかったので、こわごわもっと近寄って見ますと、それは冷たい大きな黒い岩でした。

空がくるくるくるっと白く揺らぎ、草がバラッと一度にしずくを払いました。

（間違って原を向こう側へおりれば、又三郎もおれも、もう死ぬばかりだ。）と嘉助は半分思うように半分つぶやくようにしました。それから叫びました。

「一郎、一郎、いるが。一郎。」

また明るくなりました。草がみないっせいによろこびの息をします。

「伊佐戸の町の、※電気工夫の童ぁ、山男に手足ぃしばらえてたふうだ。」

といつかだれかの話した言葉が、はっきり耳に聞こえて来ます。

そして、黒い道がにわかに消えてしまいました。あたりがほんのしばらくしいんとなりました。それから Ⅰ ヒジョウに強い風が吹いて来ました。

Ⅱ 空が旗のようにぱたぱた光って飜り、火花がパチパチパチッと

Ⅲ モえました。④嘉助はとうとう草の中に倒れてねむってしまいました。

そんなことはみんなどこかの遠いできごとのようでした。

もう又三郎がすぐ目の前に足を投げだしてだまって空を見あげているのです。いつかいつものねずみいろの上着の上にガラスのマントを着ているのです。それから光るガラスの靴をはいているのです。

又三郎の肩には栗の木の影が青く落ちています。又三郎の影は、また青く草に落ちています。そして風がどんどんどんどん吹いているのです。又三郎は笑いもしなければ物も言いません。ただ小さなくちびるを強そうにきっと結んだまま黙ってそらを見ています。いきなり又三郎はひらっとそらへ飛びあがりました。ガラスのマントがギラギラ光りました。ふと嘉助は目をひらきました。灰いろの霧が速く速く飛んでいます。

そして馬がすぐ目の前にのっそりと立っていたのです。その眼は嘉助を恐れて横のほうを向いていました。

嘉助ははね上がって馬の名札を押さえました。そのうしろから三郎がまるで色のなくなったくちびるをきっと結んでこっちへ出てきました。

嘉助はぶるぶるふるえました。

「おうい。」霧の中から一郎の兄さんの声がしました。雷もごろごろ鳴っています。

「おおい、嘉助。いるが。嘉助。」一郎の声もしました。嘉助はよろこんでとびあがりました。

「おおい。いる、いる。一郎。おおい。」

一郎の兄さんと一郎が、とつぜん、目の前に立ちました。嘉助はにわかに泣き出しました。

「探したぞ。あぶながったぞ。すっかりぬれだな(濡れたな)。どう。」一郎の兄さんはなれた手つきで馬の首を抱いて、もってきたくつわをすばやく馬のくちにはめました。

「さあ、あべさ(行こう)。」

「又三郎びっくりしたべぇ。」一郎が三郎に言いました。三郎はだまって、やっぱりきっと口を結んでうなずきました。

みんなは一郎の兄さんについて、ゆるい傾斜を二つほどのぼり降りしました。それから、黒い大きな道について、しばらく歩きました。

稲光りが二度ばかり、かすかに白くひらめきました。草を焼くにおいがして、霧の中を煙がぼうっと流れています。

一郎の兄さんが叫びました。

「おじいさん。いだ(居た)、いだ。みんないだ。」

おじいさんは霧の中に立っていて、

「ああ心配した、心配した。ああえがった。おお嘉助。寒がべあ(寒かろう)、さあ入れ。」と言いました。嘉助は一郎と同じようにやはりこのおじいさんの孫なようでした。

(宮澤賢治「風の又三郎」による)

※おとこえし…白い小花をたくさんつける多年草

※あざみ…紫色の花をつける多年草

※白墨…チョーク

※寸…長さの単位。一寸は約三センチメートル

※尺…長さの単位。一尺は約三〇センチメートル

※野馬…野生の馬

※電気工夫…電気工事などの現場で働く労働者

※くつわ…馬の口に含ませ、手綱(たづな)をつける道具

一　空欄 A に入る言葉として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。

1　ところが　2　だから　3　あるいは　4　ところで

二　空欄 B ・ C ・ D にあてはまる言葉の組み合わせとして最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。

	B	C	D
1	すぐ	はっきり	とうとう
2	やはり	とうとう	すぐ
3	とうとう	すぐ	やはり
4	はっきり	やはり	すぐ

三　――線部②「現れました」を文末とする一文の主語を、次の1から4までの中から一つ選びなさい。

1　大きな　2　谷が　3　いきなり　4　目の前に

四　文章中の波線部Ⅰ～Ⅲのカタカナは漢字に、漢字はひらがなに直し、楷書でていねいに書きなさい。

Ⅰ　ヒジョウ　Ⅱ　旗　Ⅲ　モえ

五　江戸町中学校の二年一組では、国語の授業において、文章の内容について話し合いを行っています。次の**【話し合いの様子】**を読んで、あとの問いに答えなさい。

【話し合いの様子】

Aさん　・・・・・・・・・までは、嘉助の置かれた状況や、次第に心の余裕を失っていく様子が描かれているね。

Bさん　「①嘉助は笑いました」と、「③短い笑い声」では、同じ「笑い」でも少し意味合いが違うね。

Cさん　どんな心情の変化があるのだろうね。「①嘉助は笑いました」からは、まだ心の余裕が感じられるけど、「③短い笑い声」からは・・・。

Bさん　そうか！「③短い笑い声」は、［　ア　］嘉助の気持ちを表しているわけだね。

Cさん　だからこそ、栗の木の前にたどりついた時、嘉助はがっかりして、黒道をまた戻りはじめたんだね。

Aさん　大きな谷から栗の木までは、［　イ　］を頼りに必死で歩いてきたわけだから、頼るべきものを全て失った気分だろうね。

Bさん　「④嘉助はとうとう草の中に倒れてねむってしまいました。」とあるけど、きっと、体力・気力とも限界だったのだろうね。後半はどうなるのか、読み進めていこう。

(1)　**【話し合いの様子】**の［　ア　］に入る最も適切な言葉を、次の**1**から**4**までの中から一つ選びなさい。

1　道幅や歩く方向が変化することを楽しんでいる　　**2**　迷った末にようやく足跡を見つけて喜んでいる

3　何度も期待を裏切られて投げやりになっている　　**4**　東西南北の方角がわかって得意気になっている

(2)　**【話し合いの様子】**の［　イ　］に入る言葉を、文章中から七字で抜き出しなさい。

(3) ――線部④「嘉助はとうとう草の中に倒れてねむってしまいました。」以降を読んでいく中で、Aさんは、**「一郎の兄さんと一郎が目の前に立ったとき、嘉助がにわかに泣き出したのはなぜか。」**という疑問をもち、嘉助が泣き出した理由を次のようにまとめました。□に入る言葉を補い、解答欄に合うように書きなさい。

□だった嘉助は、□から。

六　この文章の特徴として最も適切なものを、次の**1**から**4**までの中から一つ選びなさい。

1　登場人物の気持ちの変化を共感的に表現するために、主人公の視点で語っている。
2　登場人物の内面を情景の移り変わりで表現するために、会話文を少なくしている。
3　登場人物の心情を細かく描くために、倒置法や体言止めなどの技法を用いている。
4　登場人物をいきいきと描くために、方言交じりの会話文や比喩表現を用いている。